

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |               |    |                |
|----------------|---------------|----|----------------|
| ○事業所名          | CHEKA カリフォルニア |    |                |
| ○保護者評価実施期間     | 2026年 3月 1日   |    | ～ 2026年 4月 14日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)        | 34 | (回答者数) 17      |
| ○従業者評価実施期間     | 2026年 4月 1日   |    | ～ 2026年 4月 11日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)        | 7  | (回答者数) 7       |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 4月 15日  |    |                |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等  |
|---|--|--|---|
| 1 | 毎日の調理活動を通じて、成果物(料理)を基に自己評価・他者評価を行える点。      | 調理後に振り返りの時間を設け、「できたこと・工夫した点」を言語化する機会を意識的に作っています。<br>また、職員や他児童からのフィードバックを取り入れ、相互に評価し合える環境づくりを行っています。                                    | 評価の視点を明確化し、段階に応じた振り返りができる仕組みづくりを進めています。<br>また、役割分担や目標設定を取り入れることで、主体性や達成感をより高めています。                                      |
| 2 | チームでの共有と連携による支援の質の向上                       | 日々のミーティングや振り返りを通して情報共有を行い、支援の方向性にズレが生じないように意識しています。<br>また、ご家庭や関係機関との連携を大切に、情報をもとに支援内容を見直すことで、継続的な質の向上に努めています。                          | 情報共有の質を高めるため、記録様式やミーティングの在り方を見直し、より具体的で実践につながる共有体制を整えていきます。<br>また、関係機関との連携機会を増やし、多角的な視点を取り入れることで、より一貫性のある支援体制の構築を目指します。 |
| 3 | 個別性を重視した柔軟な支援力                             | 児童一人ひとりの特性や当日の状態を把握するために、日々の記録や職員間での申し送りを徹底しています。<br>また、活動内容や関わり方についても基本的には【調理】であるが、それを固定化せず、その都度見直しを行いながら、本人にとって最適な支援となるよう柔軟に調整しています。 | 児童の特性理解をより深めるために、外部研修への参加や専門的知識の習得を進めています。<br>また、支援内容の振り返りを定期的に行い、成功事例や課題を蓄積・共有することで、より質の高い個別支援につなげていきます。               |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること       | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|--|--|--|
| 1 | 活動内容(屋外・調理等)の特性上、状況に応じたリスク管理や役割分担の徹底に課題が残る場合がある。 | 状況に応じたリスク管理や役割分担の徹底に課題があり、実際に事故が発生する事案があった。<br>事前のリスク想定や職員間の役割認識に不十分な点があったことが要因と考えられる。 | 事故の発生を重く受け止め、活動前のリスクアセスメントと役割分担の明確化を徹底する。<br>また、ヒヤリハットおよび事故報告の共有と再発防止策の具体化を行い、職員全体で安全意識の向上と対応力の強化を図る。<br>さらに、定期的な安全研修やシミュレーションを実施し、同様の事案の未然防止に努める。 |
| 2 | 職員ごとの経験や感覚により、支援の質や関わり方にばらつきが出る場合がある。            | 支援方法の明確な基準に関しては会社の【MISSION・VISION・VALUE】を作成しているが、職員ごとの経験や判断に依存する場面が生じている。              | 【MISSION・VISION・VALUE】を日々の支援場面に具体的に落とし込んだ行動指針や事例集を作成し、職員間で共通理解を図る。<br>また、定期的な振り返りやケース検討を通じて、MVVに基づいた支援が実践できているかを確認し、支援の統一を進めていく。                   |
| 3 | 日々の記録や振り返りが、支援改善や全体共有にまで十分活かしきれていない場面がある。        | 記録は実施しているものの、分析や共有の時間・仕組みが不足しており、支援改善に十分つながっていない。                                      | 記録様式の見直しや振り返りの時間を確保し、具体的な改善につながる活用を促進する。<br>また、成功事例・課題の見える化を行い、全体で共有できる体制を整える。また、定期的に行う研修で記録を生かした検討会の実施に努める。                                       |